

国語 第4学年 人物の気持ちの変化を伝え合おう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：ごんの行動や気持ちの変化を、兵十との関係と場面の移り変わりから想像する。最後の出来事だけで結論を決めず、前の場面の行動と情景を読み合わせる。C(1)エの学習として、気持ちの変化の記録。ごんと兵十の行動・知っていること・気持ちを場面ごとに並べ、変化のきっかけを示す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、ごんの気持ちの変化を、兵十との関係や場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：気持ちの変化の記録を残す。ごんと兵十の行動・知っていること・気持ちを場面ごとに並べ、変化のきっかけを示す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)エに関わる学習の中身をかめめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：ごんと兵十の知っていることを混ぜる。最後の場面だけから、ごんの行動の意味を決める。これについて、人物ごとに「したこと」「知っていること」「想像した気持ち」を分ける。前の場面と関係付ける線には、何がきっかけかを添える。言葉の引用は原本から教師が書き入れる。〔知識及び技能〕(1)オとC(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この場面のごんのはきは、前のどんな行動や出来事と関係していますか。兵十の受け止め方と比べるとどうですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：気持ちの変化の記録は紙に記録できる。ごんと兵十の行動・知っていること・気持ちを場面ごとに並べ、変化のきっかけを示す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：既存の9時間版と時数が違う理由は何か。

返し：既存版は国立教育政策研究所の事例の時数を基にしている。この版は東京書籍の年間計画の全13時間を採り、語句・場面ごとの確認と再読の時間を明示した。中心はC(1)エである。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この場面のごんの気持ちは、前のどんな行動や出来事と関係していますか。兵十の受け止め方と比べるとどうですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

